

第5回新宿区文化芸術振興会議（第5期）議事要旨

■開催日時 令和2年3月27日（金） 午後2時から午後4時まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎6階 第3委員会室

■出席者

委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 松井千輝 松島貴美子 的場美規子 大野順二
中島隆太 大和滋 （欠席 岡室美奈子 舟橋香樹）

*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く。)

事務局 菅野文化観光産業部長 小泉文化観光課長 原文化観光係長 加藤文化観光係主事

■議事の進行

*新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、新宿区文化芸術振興会議規則第5条第5項により非公開で開催した。

1 開会

- (1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 本日の進行について、次第に沿って進行することを確認した。
- (3) 議事に先立ち、事務局が新宿フィールドミュージアム2019の実施報告を行った。

2 議事（要旨）

(1) 前回会議の内容について

資料1に基づき、前回会議（令和元年12月10日開催）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。

(2) 調査審議事項

資料2に基づき、垣内専門部会長が説明を行い、資料の詳細は事務局が説明を行った。

(3) 意見交換

【以下、意見交換】

・前回の議論、専門部会での検討を含めて、議論の方向、どういう取り組み方をすればいいのかについて、かなり情勢が結構変わってきた部分もある。

・一つはコロナウイルスの感染拡大で、文化芸術界が、特に舞台芸術系の劇場の閉鎖とか美術館の閉鎖とかあり、3月20日現在で約5,000公演、全国で中止がほぼ確定的になってきている。収入で見ると500億円ぐらいの消失があるというようなことで、普通の場合と違い、突然チケットが売れなくなるので収入がゼロになってしまう。そして、今までかかった準備費用が全部回収できないという結構なマイナスになってしまった。突然のそういうような状況で、3月20日の段階で、かなり芸術団体からいろいろな声が上がってきており、いろいろ各方面に働きかけをしている。

・次に東京2020オリンピック・パラリンピックの延期の問題が出てきて、今後どうしていくのかというので、コロナウイルスはいろいろな意見があるが、いつかは収束をするだろうと思うし、収束したときの新宿区の文化をいかに発展更生させるか、そういう観点からも、今日の議論で少しでもそういう方向性を何か盛り込む。今まで考えていなかったテーマだと思うので、少しお話ししていただければいいかと思う。

・5期10年フィールドミュージアム等をやってきて、そこそこの充実というか、参加団体を含めて、イベントのこととか、横のつながりとか、そういう面で新宿区内の文化団体の連携強化、つながりが

強まってきて、今後うまくやれば面白い展開ができてくるだろうという、10年たって次の節目に来て、ちょうどオリンピックが終わって次の段階ということだった。

・やはりこういう困難な時期を節目にして、次の展開を図っていくときだろうと考えており、この10年間、大きくフィールドミュージアムが充実してきたので、さらに今回議論しているような情報基盤の強化、発信機能の強化、今までやってきたウェブとかも含めて、多様なSNSをそれぞれの特性を生かして、フィールドミュージアム参加団体が共有して一緒に使うとか、そういう展開を図る。

・あるいはウェブの機能強化みたいなこと。そうすれば、次の展開の1つになるだろう。

・もう1つの芯として、新宿文化センターの方向性が定まってきて、1つのコアが音楽と舞踊ということが出てきたので、この10年間で芯ができたかと思っている。

・連携というのは、最初から言われてきたテーマだが、なかなか具体化していなかった。今回、アウトリーチというか、何か共通のテーマを設けて一緒にやるということよりも、アートの社会に対する提供の仕方です連携するみたいな、トークフリーデーみたいなものとか、アウトリーチ活動みたいな、そういう観点を変えた活動だったら連携できるのではないかと。

・いわゆる美術と実演芸術は、美術館に行ってパフォーマンスをやるという連携ぐらいはあるが、なかなか難しい。美術館同士はやりやすいが、でも、同じようなテーマだったら分野を超えて連携できるか、前回の議論を受けて今回の提案にまとまってきたということで、フィールドミュージアムの次の10年の一歩を何か切れるような報告書に、今日の議論でなれば良いと思う。

・やはり継続は力なりで、少しずつであるが、このフィールドミュージアムというのが参加者も増えてきて、大変素晴らしいことだと思う。

・今期から活動も5カ月に延ばしたことを、どう評価すべきなのか。通常5カ月というのは、非常にロングランになってくるが、オープニングイベントはあるもファイナルイベントはない。例えば、オープニングをやったらファイナルイベントに何か企画を持ってくるとか、そういう長い期間でやったときに、そんな形で少しずつ何か試みながら、盛り上げていけばいいのではないかと考えた。

・5カ月に延ばしたことについての評価を、何か事務局側からお聞かせいただけないか。

・（事務局）最初は2カ月、それを3カ月に延ばし、今回5カ月と、段階を踏んで延びてきたが、参加者も292万人と増えてきた。アンケート等にもあるが、新宿でこれだけの期間で様々なイベントをしているのだなというのが分かったというような、新宿の魅力を知っていただけるといったような機会が増えたのかと考えて評価している。

・ありがとうございます。この新しい提言の中にもあるが、いろいろな工夫の中で、私もある部分ではプレーヤーの1人としても、皆様とさまざまな連携をしながらやっていきたいと思う。

・やはり、いかにマスコミに訴えかけるかということだと思うが、これは、取材を受けて発信することだと思う。フィナーレのコンサートも、新宿文化センターで大々的にできたらいいと思った。

・私どもも、2月28日からずっと中止で、また、東京都から3週間の自粛要請があり、そこは主催者に任せるところだが、文書で来てしまうとどうしようもなく、もうアイデアも出尽くしたなということ。

・やはり発信していかなければとは思っていて、フィールドミュージアムについては、やはりFacebookは、もう少し古い。やはりInstagram、動画配信。動画を、携帯で撮ったのもいいので、10秒ほどでも、とにかく載せる。頻度がすごくないと駄目。

・1週間に1回載せたからいいのではなく、毎日いろいろなところでどんどん情報を載せていく。

・区の職員も若い方がいっぱいいると思うので、どんどん出て行って、いろいろなイベントを発信していただいて、できればNHKのようなところで、首都圏ニュースか何かに流していただくと、ポンといくのかなと思うので、ぜひ頑張ってください。

- ・今、コロナウイルスで、世界中ひどい状態になっている。あと、フリーランスの音楽家がとにかく食えない。出演できないのでお金がもらえない、ヨーロッパでは所属しているオーケストラが、フリーランスのために募金活動をしたり、著名な指揮者がフリーランスを助けようとか、そういうことも始めているようだし、7月に収まっているか全然分らないが、そういう方々も大変な状況であると思うので、何か実になるようなこともしていただければと思っている。
- ・期待しているので、フィールドミュージアムには足しげく通いたいと思うので、頑張っていきたいと思いますというぐらいしか言えない。
- ・フィールドミュージアムの報告書は、大変見やすく作ってある。
- ・写真でも分かるように、オープニングイベントは本当に盛り上がっていた。当日あいにく雨だったが、会場が高島屋の特設会場で屋根があり、大盛況。当日の様子がJ:COMで放映されたが、とても楽しい雰囲気画面上からも伝わってきた。ぜひ今後もあの場所で開催していただければと思う。
- ・個人的には新宿文化センターに足を運ぶ機会が非常に多く、40周年事業のドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団、高橋幸宏さんのライブ、キエフバレエを見に行ったり、自分が音楽祭に参加したり、あと確か小ホールで、-shin-音祭でラップなどをやっていたと思うが、後日、そのホールでパリンピックの講演会があり、すごく感動的で、新宿文化センターというのが音楽と舞踊の柱の二本立てでいくという方針の中でも、様々な使い方というのがあったと実感した。
- ・-shin-音祭で、新宿にこんなホールがあるということを知らなかったという意見がたくさん聞こえてきて、また、新宿でライブを聞くには一番安全な場所かもしれないという意見もあった。
- ・それから、スタッフの方が、座るように皆さんに呼びかけていたこともあり、座って見られるのは非常に楽だと。いつもライブ会場だと、混み合っている中で立ってやらなければいけないので、そういうのもすごく楽だったし、見やすくよかったという意見もあった。
- ・レストランが非常に昭和くさい、汚いというのがある。最近の女子はやはりインスタ映えをする所を求めているので、以前のアンケートでも確かレストランにいろいろな意見があったと思うが、レストランを改善していくいい機会なのか、などと思った。
- ・-shin-音祭の舞台で、アーティストの方々も新宿にこんな大きなホールがあるということを知らなかったと口々におっしゃっていたので、やはり音楽関係者にこのホールを知っていただかなければいけないと思う。そういった働きかけもぜひ積極的に行っていただきたい。
- ・-shin-音祭、非常に安い価格で1日中すごく楽しめて、若者の手が届く価格で、今後も充実した内容をやっていただければと思っている。
- ・第5期の活動報告書(案)について、8、9ページにもあるように、公式WEBサイト、Facebook、TwitterなどのSNS、本当に今後とも情報発信としては非常に重要なツールになっていて、効果的な活用が、ますます求められると思う。
- ・コロナウイルスのため、様々なイベントが中止や延期になり、急に休校になったり、家でリモートワークする方々も非常に増えているので、家で過ごす時間を価値あるものにしていくことが非常に求められているように感じた。その際には、やはりSNSというのが非常に重要と実感した。
- ・子どもがおり、家にいても飽きないようなものを探さねばならず、教育系、エンタメ系とか様々な無料コンテンツをネットで検索していると、無料提供のものがすごく多い。例えば漫画、書籍、ドラマ、アニメ等、期間限定でたくさんあり、音楽に関しても、大手のところも個人でもライブ配信等をたくさんしており、飽きないコンテンツがたくさんあると感じた。
- ・無料コンテンツを提供すると、新規ユーザーの興味を引き、最終的には囲い込むような形になる。
- ・新宿区でもコロナウイルスで中止や延期をするイベントがたくさんあるかと思うが、そういうものの映像を提供する。
- ・SNSを上手に使うことで、元々興味を持っていた方々が非常に満足するものや新たな方々にも興

- 味を持っていただけるようなコンテンツをたくさん用意することが今後必要になってくるかと思った。
- ・報告書について、数字も出ており、明らかにこの10年間、活動が充実してきている様子が伝わり、とても見やすいと思った。
 - ・情報発信に今回特化して話を進めてきて、どんどん新しいものが出てきているので、うちのところでも、もうインスタでやっていくのがいいのではないかとということで、情報提供する相手がどういうものを見ているかというのを常に注視しながらやっていかないと、情報をいかせたい人にはいかないというのが1つ。
 - ・今回、2冊パンフレットを作っていたが、パンフレットだと、興味の有無にかかわらず、いろいろな情報が見えることによって、新宿に多様な活動があるということが目で見て分かるという点では、捨てがたいアイテムと思った。
 - ・今コロナウイルスの話があるが、本当に実演家の方も、ホールを持つ方も窮していらっしやると思う。ネット配信でオーケストラをしたら、普段見ない方が6割くらい、初めてクラシックを聞いたなんていう記事が新聞に載っていた。私もすごく気持ちが縮こまってはいるが、この機会に、そういうネットでライブ配信することによって、今まで見たことがない人たち、足を運んでこなかった人たちに、こういうものがあるということを知らせるいい機会と捉えて、コロナウイルスが収束したときには、実際に足を運んでもらえるような種まきの期間くらいに方向転換していけるといいとは思っている。
 - ・行政として何か手当てを。やはり文化芸術関係の人たちはとても本当に窮していると思うので、そこは何かできればいいのではないかとというのが1つある。
 - ・オリンピック・パラリンピックについて、新宿区が、今年度と来年度2年間、いろいろな区民の団体に助成事業をしている。延期になったので、そこのところはどうなるか分からないが、今年度の助成金に関して、一番初めにこの事業は、オリンピックはスポーツの祭典でもあるけれども、文化の祭典であるというところを押さえたところでスタートはしている。
 - ・大会終了後の活動については、大会を振り返ることがメインになっていて、アスリートを招致したり、スポーツ教室をすると。あとボランティアをした人の講演会ということで、文化に関して全く振られていない、オリンピック・パラリンピックが終わった後の助成活動に関しては、やはりオリンピック自体が文化も含めての活動であるというところで、助成事業の中で文化活動を省いた内容での活動を推進しているのは少しおかしいかなというのがあるので、これからこの助成金もどうなるか分からないが、もし見直す機会があるなら、少し見直していただきたい。
 - ・「shin」音祭に参加させていただいた。データでは、20代、40代が結構たくさんいらして、先ほど話にでたが、こんなところにあったんだというお声を、私も実際に聞いた。
 - ・こんなところがあったんだということを、どのアーティストさんもおっしゃっていて、認知度を高めるのにはとてもいいイベントだったと思う。
 - ・区民も、改めて知ることでもできたイベントでもあり、区外の方東京都以外の方もたくさんいらっしやっているとことなので、少し少しの積み重ねがすごく大事なのではないのかと考えている。
 - ・情報発信だが、やはりSNSを通してのものというのはすごく大事。ただ、いろいろな情報がたくさんあるので、その中からいかに選んでもらえるかというのが物すごく大事なのかと思っている。
 - ・今、本当に情報がたくさんあるので、情報を提供することも大事なのだが、いかにそこに食いついてもらえるかというのがすごく大事なところだなと思っている。
 - ・若者の方たちにまず投稿していただくことも大事なのではないかと考えている。
 - ・フィールドミュージアムではスタンプラリーを行っているのですが、それによって知ることでもできているが、よくあるイベントなどで投稿すると何かもらえますよ、特典がありますよという方法があるので、それを使えば、もう少し発信をしてくれるのではないかなと思う。もちろん面白ければ発信はしてくれるが、それ以外の特典をつけるということも大事と考えている。

- 報告書の件で、概要の1枚のペラ紙3枚、3ページ、すごく分かりやすく、このように流れてきたんだというのが分かるので、とてもいいと感じた。
- 今回、コロナウイルスの影響と東京 2020 オリンピック・パラリンピックの延期が出てきてしまったので、ここに何を盛り込むのかということも課題になっているのではないかとと思う。
- いろいろと大変な時期ではあるが、大変な時期だからこそ、何か改めて出てくることもあるし、割と人は困ったときに新しい方法が生まれてくることもあるので、そういうチャンスでもあるのかなと前向きに捉えたいと個人的には思っている。みんな内に入ってしまうので、ぜひこんなところもあったんだ、こういう方法もあったんだということが、何かつながればいいと思う。
- ドイツの文化大臣の方も、文化はよいときのみ与えられる芸術ではありませんということをおっしゃっているので、こういう、皆さんが何となく暗い重たい雰囲気のときこそ、いろいろなところに響くものができればいいなと個人的にはすごく思っている。
- この第5期の報告書は、今までの議論が非常によくまとめられていると思う。
- コロナウイルスの話はこの報告書後の問題でこれからだが、報告書案の中で、10ページ、区内文化施設間の企画連携の促進について、この提言1、2というのは、非常にこれからの指針として大事になるだろうと思う。
- 特にアウトリーチ活動については、これまで母親とともに子どもがいろいろ参加すると、どんなイベントが、場所があるだろうかというようなことも議論されてきた。その点を踏まえて、この提言1というのは、充実させて、具体性を持ってこれからやってほしいと思う。
- それから、異分野間の連携、提言2だが、これまで議論していた学芸員を核とする企画発信、その学芸員同士の連携という問題が具体的にあらわれてくるだろうと思う。そういう意味で、これらの提言に、これからどんな具体的な企画や試みが出てくるかということに期待している。
- 新宿文化センターは音楽、演劇を主にすると大変方向性がはっきりしてきたので、それに関して、文化センターの年間の予定をパンフにしてほしいという意見が前あったと思うが、今後しばらくはやりにくいだろうと思うが、ぜひ年間の予定のパンフも出してほしいと思う。
- 専門部会で議論をして報告書案をまとめたが、まず、フィールドミュージアムについては、ここ10年やってきて、一定の定着と成果も見られているのかなというのは部会全員が合意した。
- 実際、開催期間も2.5倍になっているので、その分を差し引いても参加者も増えているし、中身も充実してきて、だからこそ今回の報告書のテーマである情報発信の在り方、それから、特に区内の文化施設間の企画連携という2つのテーマが、今後、フィールドミュージアムをさらに充実させる上でも重要な議題であろうということも一応一致して、理解した。
- 本来だったら10年やっているのだから、例えば区民の意見を、つまりノンビジター、来ない方の意見も含めて検討するというのもいいやり方だとは思いますが、なかなか物理的な、そして時間的な制約もあるので、一応メタ評価としては、この報告書案、非常によくできた案ではないかと考えている。
- 皆様がおっしゃったように状況が激変しているので、この報告書を実際出すのは今度6月に会議をやって、9月。そうすると、まさにコロナウイルスの真ただ中を通った後の報告書になる。
- 文化芸術でも切迫度というのが分野やその専門性によって非常に違っていて、一番大きく傷んでいるのがライブパフォーマンスをやる方々。これは日本だけではなく、アメリカでもMETが全員解雇とか、組合の強いあそこがという感じなのだが、そのくらい資金的にも非常に厳しい状況に置かれているところと、若干体力があってもう少し持ちこたえられるところと、少しずつグラデーションができていて、その中でどういうふうにこの報告書を書くのか、皆様の意見もお聞きしたい。
- 5期10年間やってきて、思い起こせば、2008年、第1期の少し前がリーマンショックで大変な状況だと言われていた後に、第1期会議が始まり、2011年には東日本大震災があって、かなりいろいろな文化活動が、今ほどではないのかもしれないが、かなりの大きな衝撃を受けた時期もあっ

た。こういうのを乗り越えながら、オリンピック・パラリンピックに向けてという新しい方向性に向けて議論してきたわけだが、それが少なくとも1年延期になり、また、このコロナウイルスという状況の中で、どういう形で報告書をまとめるのだろう、本当にどうしたらいいのかという感じだ。

- ・報告書案には2つあって、1つは変動する部分で、コロナウイルスの関係で変動して追記しなければならない部分。それと、着々とやっていかなければならない固定の部分とがあるだろうと考えており、この固定の部分については、報告書案に含まれている部分は大きく変えなくても大丈夫ではないかと思っている。

- ・あとは、6月前後までの状況を踏まえて、少し何か変更点を整理して入れ込むという形になるのかという感じがしている。これがまず全体像の話。

- ・そのあたりの全体構成とかについて、ご意見があると、この後の作業もやりやすいかと思う。

- ・2つ目は、報告書のあまり変えない部分なのだが、案を作っているときに、区内文化施設間の企画連携についての提言について、2つに分けているが、アウトリーチのところ、それから異分野間の連携のところ、ここで少し議論があった。

- ・アウトリーチについては、今、アメリカだとエンゲージメントという考え方で、コミュニティエンゲージメントというのか。アウトリーチは持っている豊かな文化資源を持たざる人たちにお伝えするという上から目線が強い。そうではなくコミュニティの一員として文化芸術というステークホルダーも協力するという、エンゲージメントという考え方が強くなってきている。

- ・日本ではまだあまり広まっていないので、ややこしい話をするよりも中身を膨らませる形で書くということで、例えば、この東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館のトークフリーウィークというような事例を明らかにして、こういうことを意味しているというところをご説明させていただいている。こういう在り方でいいのだろうか。

- ・それから、2つ目の異分野間の連携のところ、先ほどもあったが、ミュージアム間での連携も実際やろうとすると、それぞれのミッションが違っていたり、強み、弱みも違うし、目指しているところも違うので、なかなか難しい。

- ・1つ大きな企画を一緒にやるというよりは、大きなテーマを設定して、そのテーマに合ったそれぞれの企画を考えていただくというような異分野間連携がいいのかというようなことで、少し弱めのトーンで書かせていただいた。これについても、追記でこんなことを書いたらいいというようなご意見があると、専門部会の検討がやりやすくなるので、何かお知恵をいただければというのが2点目。

- ・3点目は情報発信ツール、これは非常に大きく変わっていくが、やはり動画配信になっていくだろうし、動画配信自体も無料のツールが山ほどできていて、コスト面でもテクニカルな面でもハードルがどんどん下がっているので、お客さんでもいいし、鑑賞者の方が上げるのもいいし、スタッフがある意味業務の片手間でもできるくらいの状況に、今なってきていると思っている。

- ・なので、ここの書きぶりはそんなに大きく変わらなくてもいいかなと思うが、参考資料の2のアンケートは非常によくできていると思うので、これは報告書案に参考資料として付けるという理解でよろしいかというのが1点。

- ・この問1と問2だが、問1で情報発信手法として、「予定はないが使ってみたい」というところと、それから問2の「使ってみたい手法」の数字が少しずつ違う。例えば、一番上のチラシについて言うと、③の「予定はないが今後使ってみたい」というのが1.5%のところ、問2のaのチラシについて、横の欄にいただいて、「使用してみたい」のトータルが4.6%。これは多分、母集団が違うのか、何が違うのか分からないが、同じような言葉で違う数字が出ると混乱するので、書きぶりを、記載の方法とか、変えていただく必要があるかと思う。

- ・問2の「効果がある」あるいは「使用してみたい」の1、2、3とは、多分第1順位で使ってみたいもの、第2順位で使ってみたいものというのを複数回答で聞いていると思うが、少しそれも分かり

にくいので、少し図表とそれから数字の説明ぶりを丁寧にやっていただいたほうがいいかなと思うことと、もしこのアンケート調査をそのまま使うのであれば、多分母集団Nは変わらないかと思うのだが、通常はNイコール、例えば65とか、複数回答だったら明示するとか、そういう少し細かいスタイルも適切に記載していただいた方が分かりやすいかと思う。よく読めば分かるが、こういう報告書に付けるのであれば、少し丁寧にやっていただくといいかと思う。

- 皆様のご意見をいただき、もう1回、専門部会でも検討すると思う。
- フィールドミュージアムの成果の報告とか提言の案もなかなかよくできている。
- ただ、その中で、特に提言の中では情報発信の問題と異分野間も連携の問題があり、どちらもある意味で言えば、同じような方法が出てきた。どちらも方法として情報発信ツールが大いに発達し、それを使って連携ができるし、異分野間でも、例えば、音楽家とそれから展覧会、かつてのテーマにあった展覧会関連というようなことをやっていたが、そういうものを、いろいろ新しい方法で続けていくことは、もちろん必要だと思う。
- 異分野間の連携の中で意見があった学芸員同士の連携、これはヨーロッパなどではもちろんやっているが、展覧会なり、あるいはパフォーミングアーツなりを行う場合、もちろんあり得る。
- そうではなく、特に美術館の場合、平常展、常設展の場合に、かなり長期の対応をする。つまり常設展を一面で足りない分も入れて充実させる、それをお互いにやる。というのは、特に美術館、あるいはパフォーミングアーツに対してもそうだと思うが、フィールドミュージアムにしても、今までいろいろ出てきたそのほとんどがイベント志向で、何かやりましょう、こちらやりましょうとか。
- それは大変重要だが、文化芸術に関しては、日常的なもの、つまりイベントではなくて、例えば美術館であれば日常どこに行っても見られるとか、イベントにしても、例えば、前もその話をしたかな、年中行事みたいなもの。これはもう決まったものだけれども、それは文化のメイン、伝統につながるもの。伝統行事に、例えば神社、仏閣だとか、それにお祭りがあったりなんかする。それはそれだけではなく、生活、人間の非常に重要なポイントだと思う。
- それか、あまり派手ではないが、つまりイベント志向の場合に大変重要な問題で、そこに今のようない新しいツールも使ったりということができないのではないか。
- そこに行政の応援をいただく。特に最近考えているのが、展覧会は、コロナウイルスの影響で予定とおり開催ができないと騒いでいる。それはもちろん重要だが、逆に言うと、展覧会のために作品はしょっちゅう移動する。つまり、美術館の持つ展示作品による人々との日常的な接点が切れてしまう。それは美術館の役割として、ヨーロッパでもかなり問題になっている。イベントというのは一時的なもので、それは大事なだけれども、そのために常設というか、日常の中でそういうものを取り入れる必要がある。それをどううまく組み合わせていくかというような問題があると思う。
- 外国の美術館では、イギリスのウォレス・コレクションなどがそうだが、寄贈者がいない美術館になっている。これは地域の人のための美術館で、なかなかいい美術館。だから、絶対作品を動かさない。よそから展覧会で作品を貸してくれといっても、絶対貸さないような美術館。
- それは問題もないわけではないけれども、地域のみならず、遠くからでもウォレスにわざわざ行くという文化の拠点にもなって、そういうことを、こういう文化的なものどう結びつけるかという非常に大きな問題だと思う。
- 新しいツールが登場してきたので、単純に考えれば、例えば、フィールドミュージアムなども直接参加で、今度の新型コロナウイルス問題では、首相が「いや、なるべくみんなで集まらないでテレワークをやってほしい」と。だから同じことで、テレコンサートでコンサートを放映することをやっているが、テレミュージアムだってできるので、ミュージアムをただ紹介するだけではなく、観客参加型、あるいはいろいろお互いに要望も公開しながらテレミュージアムか何かができるかどうかという知恵を、これから考えていったらよいのではないかというような気がする。

- ・それは文化の継続性にとっても大変重要なことだから、このお祭りというもの、もちろん伝統的なお祭りもあるから、納涼の川開きでも七夕でもいい。それを何か新しいものに組み入れるという、それに基づいて文化芸術を生活の中に入れるということが、大変大事なのではないかと思う。
- ・話が随分漠然としているが、いろいろ今まで伺って、以上のようなことを考えていただいて、報告書のほうでそういう方向に向かっていければ。それにはもちろん行政のいろいろ応援も必要だと思う。
- ・それと、コロナウイルスが出てきた。東日本大震災のときもそうだった。津波が来て、美術館が、作品が被害を受けたとか。あのときも、イベントはできなくなった。
- ・コロナウイルスも大変な例だが、危機対応の問題。フランスでもアメリカでも、これは戦争だと言っているが、要するに戦争と同じ危機対応の問題なので、ただ逃げるとかではなくて、逆に我々の文化も、伝統的なものも、それから生活も含めて、芸術をどう守るかというのは、これから十分に考えていかなければいけない問題だと思う。
- ・今回の視点から言うと大変大きな問題になるが、何かヒントみたいなものを専門部会に考えていただいて。
- ・お祭りでも、フィールドミュージアムでも、華やかに賑やかにみんな参加してやろうという方向は非常にいい。逆に、非常に危ないときに、どういうことができるのかと。重要な問題だと思うので、すぐには何か具体的な案は出ないと思うけれども、考える方向なり、あるいは考えなければいけないというようなことも、少し今後の会議で皆さんに考えていただきたいというようなことをうまく入れて。専門部会のほうで、もしできれば入れていただければと思う。
- ・今までは、例えばコロナウイルスがあると、子どもも参加できるのがなかなかできにくくなる、ではどうしたらいいだろうか。参加させないようにするのか。今まででも、美術館などは、やたらに子どもが来てしまうとうるさくて困るところがあるが、それをどういうふうにしてやるかとか、いろいろ知恵を絞ったと思う。
- ・アメリカでも、フリック・コレクションなども10歳以下は絶対入れないというようなことがあった。逆に、子どものときから美術館に行くというのも、提言の例にも、アウトリーチの例にもある。その場合には、もちろんしかるべき手当が必要なので、そういうことも今後考えていかなければいけない。
- ・特に今回、はっきりした危機意識、災害も含めて、病気やテロも起こるかもしれないから、そういうことに対して、生活も含めて文化を守ると。文化というのは生活も大事ということをそれぞれ皆さんと。具体的なことは大変ではないかと思うが、方向性なり、考えるべきテーマとしていろいろご発言いただけたらと思う。
- ・美術館の話が出たが、私も3月3日から6月14日までのロンドンのナショナルギャラリーの展覧会の国立西洋美術館のチケットを買っていた。
- ・すごくいい展覧会になるはずだったが。
- ・楽しみにして、早々にチケットを買っていた。まだ開催が未定ということで、常にホームページをチェックしている。そのときにインターネットで様々なことを検索していたら、私は知らなかったが、世界中の美術館を鑑賞できるGoogle Art & Cultureというのがあった。いろいろ見て、もちろん国内で大原美術館をはじめ様々な美術館や博物館をオンライン展示で、中をぐるぐる見られるような感じで、絵画を鑑賞できて、すごく面白いものがあるなと思った。
- ・私もこういう機会がないとそこまで検索をしなかったので、こういう、本当にピンチがチャンスではないが、様々なことのきっかけが人を変えるというか、こういうときだからこそ、こういうものがあるということを広めておくと、様々な人がいろいろなことに興味を持つきっかけになるし、普通に地図とかを見ても、Google Earthとかで自宅の周りを検索したりとかすると、周辺の映像が出てくる。子どもなんて、普通の平面の地図を見るよりすごく楽しい。

- ・子どもにもオンライン展示とか見せたら、絵画に興味を持つというよりも、迷路みたいな感じで、非常に美術館巡りみたいなのが面白いというふう感じた。
- ・そういうコンテンツもあるということが日常的にみんなに広まれば、もっと興味を持つかと思うし、SNSを本当に上手に活用することで、無限大に幾らでも広めることはできると実感しているので、ぜひ前向きなことを報告書の中に盛り込んでいただければと思う。
- ・先ほどあったように、変動と固定という考え方はすごくいいと思った。
- ・今お話があったGoogle Art&Culture、私もたまに見ている。普通では見られないものが360度で見られるとても楽しいもので、知らない方も多いからもったいないと思っている。
- ・今回、お出かけができていた人ができなくなったり、あとはいろいろなところが閉まってしまったということは、実はお出かけがしたかったのだけれども、できていなかった人がいっぱいいたんだなということを改めて考えるきっかけにもなった。
- ・元の生活が戻ってきたときに、皆さん、少しずつこの気持ちが薄れていくと思うが、実はお出かけをしたくて美術を見たかったとか、音楽が聞きたかったという方が、ネットを通すことによってできることになったのは、ある意味ではいいことなのではないかと思っている。なので、そこも少し書いていただけるとうれしいと思う。
- ・芸術そのものも新しいツールでもって随分変わってきている。そうだから、音楽にしても、シンセサイザーとか前衛音楽みたいなのが前からあったが、それが今度一般の人にどういうふうに向けられるかという。芸術の問題にもなり得るだろうと思う。
- ・そうすると、芸術や我々について、出来上がった答えがあるわけではなくて、いろいろ考えていかなければいけない問題だと思うが、この会議も、まさにそういうことを考えていく場所でも、あるいは、考えてほしいという場所だと思うので、行政も含めて検討したいと思う。
- ・深く考えていないのだが、このコロナウイルスのことをどういうふうに持っていくか。6月にどういいう状況になっているか分からないし、いずれにしてもどこかの段階でコロナは収束するだろうと。ただ、今、他の委員のお話も伺ったりすると、やはりマーケット、つまりビジターの人はいずれ復活する。今一番傷んでいるのはアーティストの人たち。アーティストが絶えてしまうと大変なことになってしまうので。
- ・例えば、どうやってアーティストを短期的にフォローするか。短期的という言い方がいいのかどうか。そうすると、たまたま来年にオリンピックが延期になったので、オリンピックというのはスポーツの祭典であり、文化芸術の祭典だから、例えば、傷んでいる団体にとって何がいいかということ、来年の、例えばフィールドミュージアムのときに、箱物を貸すフィー、そこに財政を投じるだとか。そうすると、入場料も安く、プレーヤーの人たちの財政とかにもよいのでは。例えば、そういう何かアーティストの人たちをコロナの収束後にずっと持続性を保てるようなことを、6月の段階を見ながら、提言の中に入れ込むだとか。
- ・何か国はいろいろなばらまきのことを考えているようだが、例えば区としての対応とすると、そういうような、いかにアーティストとか、そのアーティストの組織とか、団体とか、そこに手を差し伸べるかというようなことが、多分この状況がもう少し長く続くと必要になってくるのではないかと思った。
- ・基本的には誰がコストを出すのかという問題。
- ・そう。だから、コスト負担者の問題に必ずなってくる。
- ・施設を貸すのは全然問題ないが、指定管理だったら、指定管理料に含まれるのか、それとも追加で出すのか、追加で出すときは新宿区が負担するのか。
- ・だから、支援という話になると、どうしてもやはり一番コストのところが、財政のところが傷んでいるので、そこが非常に難しいところだと思う。

- ・そう。いろいろな情報発信も、情報発信は、大分コストも下がってきているが、やはりコストがかかる。そのコスト全部、それぞれの主催団体が負担して出していいのか。では、ネット上課金するというシステムを作るには、そこにもお金がかかり、なかなかそこが、誰がどういう形でコストを負担するのかというところが。
- ・どこかで必ずコストがかかっているわけなので。
- ・なので、あまり具体的なことは難しいと。今の段階で言うと、どうも。俳優さんとか音楽家とかフリーランスの方々はギグ・エコノミー（注：インターネットを通じて単発の仕事を受け負う働き方）も含めて、別にアートだけがフリーランスではないので、いわゆる正規でない人たちのいろいろな負担給付に収れんして行って、現金給付なのか商品券なのかとか、何かそういう議論まで起きているという段階。
- ・そういうふうになると、この世界は。必ずそういうふうになるので、それをフィールドミュージアムという枠組みの中に入れ込むと、今おっしゃったようなところまで広げずに、もしかすると論理必然が成り立つかもしれないという。分からないが。
- ・これは、おっしゃるように区長に対する提言だから。小池知事が、ライブパフォーマンスとかやめてほしいと。ただし、お願いするという形で。それで、ではそれをやめて損失が直接あった場合に、都が補償してくれるかということ、それはまた、都の税金からそう簡単に出せるとは言えない。だから、いろいろお願いしますみたいなふうになった。そうならざるを得ないと思う。
- ・考え方によっては、非常時だったら、例えば本当に戦争とかテロがあったりしたら、そんなことを言っていられなくなる。コロナウイルスはかなりそれに近いと思う。フランスの例で考えたならば。
- ・だから、今の場合にはもちろんそうではなくて、日本のこの現状の中で、首長に対する考えてほしいとか、注文も含めたものを我々は出さなければいけない。しかし、今のようなことも含めて、そういう視点を入れていただくということが必要だと思うが。
- ・私どもも、関係団体と協力して、問題になってきているのは、芸術団体とかそういう劇場事業者の問題と個人の問題と、ここをどうしていくかということ。
- ・現段階では、厚生労働省の件で、フリーランスの人が一番今影響を受けているので、貸付金が、昨日出たのかな。最高55万円くらい貸し付けるといっているので、2年間、生活が改善しなくても返さなくていいというようなスキームを出したが、そういうものが出てきて、少し早く借りられるというような仕組みが出てきたようなのだが、そのようにアーティストについては動き始めている。
- ・この要望の中で、実現性は別として、昨日、文部科学大臣に関係議員が文化芸術復興基金を作れというようなことを提唱してはいる。できるかどうかは少し分からないが、補正予算で。
- ・いろいろ思っていて、フィールドミュージアムに関連して、フリーランスが一番関わっているのは、例えば、-shin-音楽祭の重要な基盤、新宿区内のライブハウスが潰れるぞという。
- ・民間が、まず最初に傷むし、これだけあっても小さい資本のところは危ないので、この産業政策として、区内のライブハウスをちゃんと支援しようというような話というのは、あり得るのかどうか分からないが、多分そういうようなことを。
- ・ロジックをどうつくるかということで、例えば、金沢市の場合、加賀料理の料亭の修復費については、無利子で融資している。多分、無利子の融資みたいなところまでは範疇に入るのだが、返せるのかという。
- ・そうだね、そこまでもつかという話。
- ・もたない。
- ・ライブハウスが、大阪の件があったから、なかなかやりにくいという、そんなようなこともあるだろうし、新宿区内のフィールドミュージアムに参加している、そういう関連する文化基盤をちゃんと新宿区は守りますよというような方向性が1つあるだろう。

- 将来的に考えると、Google Art&Cultureではないが、今閉まっているからちょうどいいのかもしれないが、フィールドミュージアム参加の施設を動画で撮って、中も含めて分かるようにしておいて、普段やっているコンテンツも少し流すとか。東京交響楽団がこの間やったが、そういうものを関連づけて、フィールドミュージアム動画版をつくるとか、お金があるか分からないが。
- 新宿文化センター内探検動画みたいなやつをつくって、それを常に流しておいてとか、それと、新宿文化センターが持っているイベントの動画を発信していくとか。
- 著作権の問題とか、いろいろ出てくるけれども。
- そういうことを蓄積して発信できれば。
- 実を言うと、そういう先見性のあるところは、このコロナウイルスの前に、はっきり言って既にやっているだから、今、出遅れたところがやろうとしている際に、わざわざ補助金をつける理由を考えなければいけないというところがある。
- あまり新宿区のお役人さんがやりにくいことを言い過ぎるのも少しどうかと思いつつ、でも、実際社会全体の目的のために、困っている方々がいて、活動ができないわけだから、何らかの形で、今こそ行政の出番みたいなのところもあるので、そこをどううまくするかというところは、多分具体的なところは落とせないのだが。
- これは区長への提言であって、お願いする面もある。別に区長を困らせるつもりはない。しかし、いろいろなことをしやすくなるようにやらなければいけないということも含めて、注文も付けたいということがある。その辺は我々もよく分かっている。
- 別に行政にどうということでは、むしろ一緒になってやりたいということなので、専門部会で皆さんの意見をうまくまとめていただき、その上で、次回もう1回、検討する機会がある。という上で、予定として次回の会議には報告書を、まず今日の会議のご意見を専門部会で整理していただいた上で、次回で決定して、それを最終的にまとめて区長に報告という、そういう順序になるということで、ひとつ専門部会のほうでとりまとめよろしくお願いします。
- 委員の皆さんも、いろいろと、今日、大変貴重なかつ重要な意見をありがとうございました。では専門部会にお願いするというので、本日の会議は終了ということとしたいと思います。本日の議事はここまでにしたいと思います。ありがとうございました。

3 事務連絡等

次回会議の日程や会場等については別途事務局から連絡することとした。

4 閉会

会長の挨拶をもって、午後4時に閉会した。